



関西支部 12/4「学生オンライン発表会」報告

2020年12月4日、関西支部主催で「学生オンライン発表会」が開催されました。第72回日本生物工学会大会（2020）がコロナ禍の状況を鑑み中止となりました。日本生物工学会 高木昌宏会長が「学生が研究発表できる場を提供してほしい」と各支部に要望され、それに応える形で開催に至りました。開催趣旨は、学生の発表と情報交換、討論の場としての発表会とし、準備をすすめる中でオンラインでの発表会を開催することは難しく、オンラインでの発表会の開催を幹事一同で決定しました。そこで、オンラインのメリットを生かし、関西支部所属に限らず、他支部の学会会員、さらには非会員（ただし学会員の紹介による）にまで広く参加者と発表者の募集をしました。その結果、学生オンライン発表会には、20演題のエントリーがあり、実際に関西支部以外の方々からもエントリーやご参加を頂きました。参加者は総数64名（最大時）と、多くの方にご参加いただきました。

学生オンライン発表会の開催にあたり、日本生物工学会関西支部の藤山和仁支部長より挨拶の後、4つのセッションに分けて口頭発表が行われました。第1部、第2部の12演題が学生優秀発表賞のエントリー演題となり、第3部、第4部合わせて8題の口頭発表が行われました。

学生優秀発表賞のエントリー対象として、生物工学会の学生会員であることを条件としました。実際の口頭発表では、オンライン発表でありながら臨場感のある発表会となり、さらに、質疑応答はチャットを活用し終始活発におこなわれました。質疑応答では、発表者のハキハキした応答が印象的でした。今回、学生優秀発表賞の審査は関西支部委員で担当し、口頭発表・質疑応答に関する投票の後、オンラインで合議し審査員の総意により、下記の4名の受賞者（敬称略）を決定しました。オンライン発表会後に、学生優秀発表賞の審査結果が藤山和仁支部長より発表され、表彰式が行われました。オンラインでもできる限りリアルな表彰状の授与を行うために、下の写真のような授賞式となりました。受賞者には、後ほど賞状を郵送させていただきました。



セッション1座長
岡野憲司支部幹事（企画）

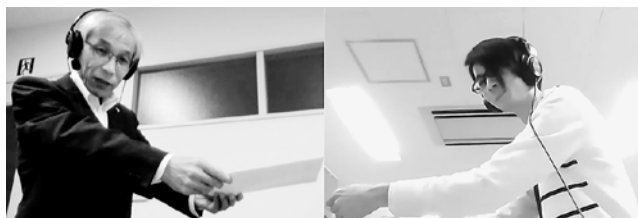
- ・金子美穂（奈良先端大・バイオ）「翻訳効率と内部配列パターンが植物mRNAの安定性に及ぼす影響」
- ・池田美紗希（阪大院・工）「*Pseudomonas stutzeri* NT-1の亜セレン酸還元機構の推定」
- ・江夏 朔（阪大院・工）「サメ由来抗体全長の特性解析に向けたCHO細胞発現系の構築」
- ・日詰達哉（阪大院・工）「ミニチュアCRISPR/Cas12f1酵素を用いたゲノム編集技術の開発」



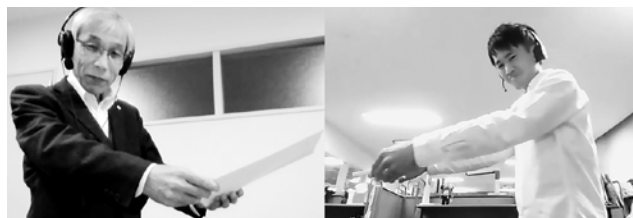
金子美穂（奈良先端大・バイオ）



池田美紗希（阪大院・工）



江夏 朔（阪大院・工）



日詰達哉（阪大院・工）

表彰式の様子

最後に、口頭発表をエントリーいただきました皆様、ならびに参加者の皆様におかれましても、会を盛り上げていただき、心より感謝を申し上げます。関西支部では、今後も醗酵学懇話会等も含めて会員相互の交流の場として提供できるよう企画して参ります。

（関西支部企画幹事 堤 浩子）